

# 交通まちづくり研究室

## 1. はじめに

当研究室は、交通に軸足を置いてまちづくりの目標を達成するための諸々の施策や取り組み（交通まちづくり）、それにかかわる手法や技術に関する調査・研究に取り組んでいます。その対象領域は、広域からコミュニティまでの各レベルを対象としたテーマ、それらに関連する国内外の調査・研究まで幅広く取り扱っています。

当研究室は平成17年9月に「都市・交通研究室」として新設され、平成19年4月から「交通まちづくり研究室」と名称を変更して活動を続けてきました。メンバーは研究員8名、情報員2名、研修職員1名の計11名です。今後も時代が要請するテーマを的確にとらえて、交通まちづくりを支援する研究テーマに積極的に取り組んでいきます。

## 2. 主な研究活動

当研究室の室員が取り組んでいる主な調査・研究テーマは次のとおりです。

### ○交通まちづくりのための国と地方の交通政策のあり方の研究

交通まちづくりを進めるため、国と地方自治体はどのような交通政策を実施すべきかについて調査研究を行っています。

- ・ 目指す目標に対応した交通政策～ハード整備、ソフト施策、モビリティ・マネジメント（TFP、学校教育、企業行動に着目したMM）、新技術、環境制約下、EST など
- ・ 交通まちづくりを推進するための法制度
- ・ 都市交通から地区交通までのマスタープランをめぐる法制度、総合都市交通体系調査のあり方、都市・地域総合交通戦略のあり方など
- ・ 限られた道路空間の道路機能に応じた有効活用、

道路空間再配分の考え方と実現方策

- ・ 地方における道路のあり方

### ○交通まちづくりのプロセス・手法のあり方の研究

実効性あるプランを検討し、プランを実現するためには、如何なる方法を用い、如何なるプロセスで実施すればよいかについて調査研究を行っています。今後は市民や関係者の理解と参加がより一層重要な鍵となります。

- ・ ワークショップ等の参加・協働型の交通計画、交通まちづくり手法、プロセス

### ○社会潮流にあった交通需要予測分析～交通まちづくりの視点から

交通まちづくりの合理的な意思決定を助けるためには、どのようなデータを収集してどのような交通需要の予測・分析を行うことが適切であるかについて調査研究を行っています。

- ・ 交通需要予測手法（利用者均衡配分、多様な料金制度の評価、車種別配分、時間帯配分、統合モデル等）
- ・ 動的交通シミュレーションを活用した交通施策の評価とコミュニケーションツールとしての活用方法に関する研究（広域、都市高速、中心市街地、駅前広場）

### ○都市・交通に関わる海外情報の収集、データベース化

上記の各項目について、海外情報を収集し、データベース化を進めるとともに、我が国の都市・交通の取り組みへの適用可能性や我が国の課題について調査研究を実施しています。

- ・ 都市計画、都市交通計画に関する海外情報（都市圏交通計画の枠組み、公共交通支援制度、新たな交通行動調査手法など）
- ・ 都市政策、交通政策、事業制度に関する海外情報（英国の地方交通計画LTPなど）
- ・ 海外の都市交通データ分析